

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	横浜市立大岡小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	自分の願いや問いをもち、追究する子どもの育成

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### I 活動に至る経緯

本校は、生活科・総合的な学習の時間を中核とした教育課程の研究を始め、27年になる。各学級で子どもと教師が追究する学習材を決め出し、個性的な学習活動を展開する。大岡小学校のこの文化は、子どもにとっても学びへの大きな期待につながるものであり、毎年新学期を迎えると、校舎内のあちこちから「今年の材はなんだろうな」「もうそっちのクラスは決まった？」といった会話が聞かれるほどである（学級ごとに材は違っていても、本校で育成を目指す資質・能力をはっきり設定し教職員、子どもと共有している）。

本校の研究は、多くの保護者からも「大岡の時間で子どもが元気に育つ」「大人顔負けの学び」と期待を寄せていただいている。地域の協力も厚く、まさに社会に開かれた教育課程の創造に直結している。今年度も子どもの学びへの期待に十分にこたえつつ、本校が育成を目指す資質・能力の十全な発揮を子ども一人ひとりに促すため、実践の充実を図っていきたくと考え、本研究助成の活用に至った。

##### II 活動・研究の目的

VUCAと言われる混迷の時代を生きる子どもたちにとって、人間らしさを失わずに力強く自らの人生を創造していくためには、「自分がどうありたいか」「何を成し遂げたいのか」と目標をもち、また既存の知識や常識に対して「問い」をもち続け多様な他者との協働を通して真理や本質を探っていこうとする態度の育成は欠かせない。

そのような人材の育成に向けて、今年度は本校の学校教育目標である「ともに学びをきりひらいていく子どもの育成 ～求め続ける子ども、創り上げる子ども、共に生きる子ども～」の理念に基づき、研究主題を「自分の願いや問いをもち、追究する子ども」と設定した。主題にある「願い」とは、「おもしろそうだ」「～できそうだ」という関心から生まれる、「～を実現したい」「～のようになりたい」といった自己実現に向かうものを指す。「問い」とは、新たな気づきを得たり、自己の考えを広げたり深めたりするきっかけとなるものを指す。

自分の願い、問いをもって追究し、達成感や成就感を味わいながら学んでいく子どもを育てたいと考え、研究活動に取り組んでいる。

##### III 活動内容

今年度、全24学級で実施された学習材は、家族、通学路、季節遊び、地区センター、大岡川、ヤギ、おもちゃづくり、お茶、煎餅、ガイドブック、おから、クレヨン、糰、紙、ゲームセンター、チョークアート、図書館、影絵、陶芸、もなか、ジャムであった。どれも教師と子どもによる、個性的で創造的な学習活動が1年を通して展開され、その中で研究主題にある「自分の願いや問いをもち、追究する子ども」の姿が多く見られた。次に事例を示す。

##### (1) ヤギの出産場面の遭遇から、自分の生命について気づきを深める子どもの姿

2年3組ではヤギの飼育に取り組んだ。「今年もヤギを飼いたい。」そんな子どもたちの願いから、2年生の4月末、2匹のヤギが大岡小へ帰ってきた。5月になると、メイがメーメーとよく鳴くようになった。発情期が来たのだ。子どもたちはヤギの出産について獣医さんから話を聞き、オスヤギのまめのすけを迎えることになった。メイとまめのすけのけっこんを見た子どもたちは大喜びして、2匹のけっこんをお祝いした。10月になると、メイのお乳とお腹がどんどん大きくなった。「もうすぐ生まれるのかな。」と期待に胸を膨らませながら、子どもたちはメイに、栄養のあるミルクやフレークを毎日あげて、一生懸命お世話をした。そして11月の晴れた日、メイのさげび声とともに、子ヤギが生まれてきた。子ヤギは何回も何回も転

んで、やっと立ち上がり、初乳を飲んだ。子ヤギの誕生を目の当たりにした子どもの振り返りである。

「もっと簡単に生まれると思っていたけど、メイが聞いたこともない声を出してまで赤ちゃんを産んだのでびっくりして、思ったことは、そこまでして赤ちゃんを産みたかったんだと思いました。産んで辛いけど立ってなめていたから、メイすごくがんばったことが分かりました。メイちゃんがお母さんになってえらくなった気がします。たぶん赤ちゃんをちゃんと育てているからだと思います。私のお母さんもこういう風にメイみたいになんぼって産んでくれたことが嬉しいなあと思いました。メイもがんばったし、子ヤギも朝からがんばったなあと思いました。こんなかわいい子ヤギが産まれて嬉しかったです。」

上記の振り返りからは、子どもがヤギの様子を通して「出産の苦しさ、難しさ」「母ヤギと子ヤギの頑張り」を感じ取るとともに、自分の命もまた、母親が一生懸命産んでくれた尊いものであるということに気付いていることが分かる。

## (2) 繰り返しの糎づくりの活動から、科学的思考、日本の伝統文化への理解を深める子どもの姿

4年3組では「糎」をテーマに、「より美味しい糎にするためには、どうするとよいのか」と問いを設定し、米を蒸し、種麴を使って醗酵させるところから取り組んできた。発酵過程における実際の温度変化グラフと糎メーカーの標準品温経過表を比較することで、理想の温度変化に近付けるためには、種麴を撒く工程を素早く行うこと、糎箱の内部温度を一定に保つ工夫が必要なことを仮説に置き、次回の糎づくりの計画を綿密に立てて試行錯誤する科学的な追究の姿が見られた。また、発酵後の米の様子から、蒸す過程で水が蒸発して減ってしまうことへの気付きから、理想的な水分量と蒸し時間を追究した。時間の経過とともに水の温度が上昇し蒸発して量が減っていくという見方は、科学的な思考力の育成にもつながった。

糎づくりが上達した子どもたちは、地域の方々に糎や甘酒の魅力を伝えたいという願いを新たに強くし、自前の糎から仕込んだ甘酒でスイーツやスムージーを作って振る舞う「糎・甘酒パーティ」を開くことにした。第1回では、参加者から「甘酒の味が感じられず美味しい」「甘酒の味がして美味しい」という2つの相反する意見が集まったことから、好みが分かれる甘酒の味や香りを残すか残さないか、自分たちの調理の方針を決める話し合いを行った。残す・残さないメリットとデメリットを多様な観点から比較しつつ、出された意見について「自分たちの目的が達成できるか」「誰でも美味しいと感じることができるか」の二軸を条件として議論の整理を試みた。整理の際は、タブレットPCを用いて全員が参加して議論できるよう工夫した。「残す」という結論に至る過程で子どもたちは、糎が日本人の健康や生活を担っていたこと、そこに1000年以上の歴史があることを糎の魅力と捉え、それを感じてもらえるようなパーティにしたいと願いを新たにすることができた。糎という先人の知恵と努力が詰まった財産への理解を深める姿が見られた。

## IV 研究の成果と課題

### (1) 成果

全職員に対して行なった今年度の研究に関するアンケートのうち、「研究主題『自分の願いや問いをもち、追究する子ども』について、どのような子どもの姿が見られたか」の設問に対する回答（23名の学級担任及び専科担当職員が回答）の記述内容について、子どもに身についた資質・能力に関連する言葉を抽出し分類した結果は、次のようになった。

- a) 身近な人・もの・ことへの興味・関心・愛着の高まり
- b) すすんで、自ら対象への働きかけ
- c) 粘り強さ、熱心さ
- d) 他者との協働
- e) 目的・目標・課題の設定
- f) 創造的思考—工夫する
- g) 論理的思考—比較、決定、要因と結果の分析、焦点化
- h) 自己表現
- i) 魅力、本質への気付き

アンケートは自由記述だが、実際に授業づくりを担当した教員が子どもの日々の成長を間近に感じながら実感として紡いだ言葉を整理したことで、上のa～iの分類は、より子どもの資質・能力の伸びを的確に言い表したものであると言えるだろう。学習指導要領解説「生活科編」「総合的な学習の時間編」（文科省）に参照すれば、a～dは、「学びに向かう力・人間性等」に、e～hは「思考力・判断力・表現力等」に、iは「知識及び技能」にほぼ合致する。したがって本研究においては、上に例示した低学年・中学年の実践にとどまらず、すべての学級において、子どもの資質・能力の育成がバランスよく、かつ効果的に図られたと結論付けることができるだろう。今後、横浜市学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査にて、今年度の研究の成果と結び付けて考えたい。

### (2) 課題

研究主題にある「自分の願いや問い」が生まれ、かつその質を高めるためには、単元の中に願いや問いが生まれる学習場面を明確に位置付けなければならない。そして、それが探究的な学習の過程で高まっていくような課題の連続性を意識しながら単元を構想していく必要がある。次年度に生かしていきたい。